

記者発表（資料配付）				
月日（曜日） 時間	担当課・班	電 話	発 表 者	その他の発表 資料配付先
3 月 29 日（金） 14:00	社会教育課 施設・管理班	078-362-9436	課長 土屋 由利子 （副課長 木山 正規）	文部科学省

平成 31 年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）に対する 文部科学大臣表彰の被表彰者の決定について

1 趣旨

平成 13 年 12 月に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、子どもの読書活動の一層の推進を図り、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めることを目的として、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた実践を行っている学校・図書館・団体（個人）を文部科学大臣が表彰する。

2 被表彰学校・図書館・団体（個人）

平成 31 年度は、兵庫県から推薦の下記 3 校、2 図書館、2 団体の表彰が決定した。

学 校	西宮市立高須小学校
	宝塚市立光ガ丘中学校
	兵庫県立姫路東高等学校
図 書 館	いちかわ図書館
	三田市立図書館
団 体	みきおはなし会＊絵本の森(三木市)
	子どもの本の会(姫路市)

※ 今回の全国被表彰学校及び図書館、団体（個人）数については以下のとおり

- | | |
|-------------|----------|
| 1 被表彰学校数 | 138 校 |
| 2 被表彰図書館数 | 47 館 |
| 3 被表彰団体・個人数 | 56 団体（名） |

3 表彰式

平成 31 年度「子ども読書の日」記念 子どもの読書活動推進フォーラム にて表彰

- (1) 期日 平成 31 年 4 月 23 日（火）
- (2) 主催 文部科学省、国立青少年教育振興機構
- (3) 会場 国立オリンピック記念青少年総合センターほか

(参考) 活動の概要

(1) 西宮市立高須小学校

当該学校では、学期ごとの読書週間、図書ボランティア（ブックママ）による読書集会や本の整理・補修、西宮市内小学校に1名配置されている図書館指導員による読み聞かせや図書館内の掲示など児童達の読書活動を推進するための様々な取り組みを行っている。図書館内では、おすすめの本や新しい本のコーナーを作り、季節ごとの掲示をするなどして、児童が本に興味を持ち、手に取る機会が多くなるような工夫をしている。また、教科の学習に必要な図書を選定するために、各学年に聞き取りを行い、地域の図書館と連携を取りながら、図書館が学習センターとしての役割を果たす事ができるように努めている。平成30年度には6年生の児童が兵庫県知事賞を受賞した。

(2) 宝塚市立光ガ丘中学校

当該学校は「生徒が本に出会い、触れる機会の充実」を目標に、司書教諭、学校図書館司書、図書ボランティアが連携して環境整備や読書活動に取り組み、図書館教育の充実を図っている。

また、生徒会図書委員会も読書推進活動を企画し、主体的に活動している。

学校図書館では、司書や図書委員会からの推薦図書を紹介するコーナーの設置や季節ごとのレイアウトの変更や掲示物の工夫など、図書に興味を持ち、手にとりやすい工夫を凝らしている。読書週間やスタンプラリーを実施し、ポイントに応じて司書・ボランティア手作りのしおりやブックカバーをプレゼントしている。貸出冊数が平成24年度に比べ、平成29年度には約2倍へと成果がみられた。

また、国語の教科指導の時間には、読書郵便や帯・ポップの作成、ビブリオバトルの指導等を通じて、図書に触れる機会を増やすとともに、本の内容理解や表現力の育成を図っている。

(3) 兵庫県立姫路東高等学校

当該学校では、図書部が毎年9月に校内読書感想文コンクールを開催しており、1・2年次の生徒全員が参加している。その入賞作品は57年の歴史を持つ校内読書感想文集『紙魚』に掲載され、全校生が入賞者の感想文を読むことで、読書体験を共有している。学校図書館協議会青少年読書感想文兵庫県コンクールでは、平成29年度は県教育委員会賞、平成30年度は県知事賞および県教育委員会賞を受賞するなど、校外の読書感想文コンクールにおいても優秀な成績を収めている。また、図書文芸部と図書情報委員の生徒が、主体的に且つ多角的に読書活動推進活動を行っており、全校生の図書貸出数を大幅に伸ばしている。平成27年度より、図書文芸部の生徒が「本de人をつなぐ」を合言葉としてさまざまな作品を創作してイベントを開催するなど、地域においても読書推進活動を継続的に実施しており、その活動は各種メディアに何度も取り上げられ、交流の輪が広がっている。

(4) いちかわ図書館

当該図書館は、約18,000冊の児童書を所蔵しており、年齢・発達に応じた本をそろえ、子供が読書の楽しみを知り、また、情報を収集することができるよう司書が支援する体制が整っている。

また、保育所・幼稚園・小学校・中学校など子供に関わるすべての機関に対して、読み聞かせや団体貸し出しなどの読書支援を行っている。特に、7・8ヶ月児育児相談の際に絵本を手渡す「ブックスタート」や、定期的に行われる「おひぎにだっこ」や「えほんのじかん」等のイベント、館内の季節感あふれる掲示などが素晴らしく、多くの子供たちに親しまれている施設である。

(5) 三田市立図書館

当該図書館は「子ども向け映画会」や「昔あそび教室」、「ぬいぐるみのおとまりかい」など、子どもが図書館に興味を持つプログラムを定期的実施している。

平成 28 年度からは「非連携型読書通帳」を全国に先駆けて導入し、I S B Nコードの読み取りを可能とすることで、図書館の蔵書以外の個人で購入した本なども記帳できる環境を提供している。三田市内の中学生以下の子どもには無償(大人は 300 円)で通帳を配布し、読書活動の推進に積極的に取り組んでいる。

(6) みきおはなし会＊絵本の森(三木市)

当該団体は、昭和 62 年の活動開始から、30 年以上の長期にわたり活動を継続されており、毎週定例のおはなし会をはじめ絵本に関する講座・講演の企画・実施等、三木市内の図書館の児童サービスに大きな貢献を果たしている。

平成 30 年 9 月には、三木市立教育センターにて、あべ弘士氏講演会を、みきおはなし会＊絵本の森・結成 30 周年記念事業として三木市立図書館と共催で実施し、134 名の参加を得て好評を博した。

図書館以外の定例活動として、月 2 回のおはなし会をアフタースクールでも実施している。また、会員が市内小学校の朝の読書ボランティアの講師を務めるなど、地域活動・学校活動にも貢献している。

会員の自己研鑽意欲も高く、月 1 回テーマを決めて研修を行い「月刊絵本の森」を発行している。

(7) 子どもの本の会(姫路市)

当該団体は、価値観を始め様々なことがめまぐるしく変化する現代社会において、子供が健全に成長していくために、幼児期からの豊かな言葉の体験が不可欠であるという理念のもと、良い本と子供を結ぶために姫路市立城内図書館の協力を得ながら、ブックトークや図書館との共催のイベント活動を行っている。また、図書館で行われる研修や行事において企画段階から参画し、効果的な事業の進め方ができている。

姫路市内の子供たちが良い本を選び豊かな読書体験をしてもらうために、ブックリスト「わたしたちの選んだ本」を作成している。また、子供だけでなく、図書館とともに市民の側から活動してもらうことで、読書に親しむ環境づくりに向けた啓発活動を進めてきた。